第３期芦屋市スポーツ推進計画
（答申）

【案】

令和５年６月

芦屋市スポーツ推進審議会

目　次

第１章　　第３期推進計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・１

第２章　　スポーツを取り巻く現状と課題・・・・・・・・・・・・３

第３章　　第３期推進計画の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・８

第４章　　“するスポーツ”の推進・・・・・・・・・・・・・・・10

第５章　　“みるスポーツ”の推進・・・・・・・・・・・・・・・12

第６章　　“ささえるスポーツ”の推進・・・・・・・・・・・・・13

関係資料

○　芦屋市スポーツ推進審議会・同調査研究部会審議日程・・・・・・・・・・・・14

○　芦屋市スポーツ推進審議会委員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

○　諮問文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

○　令和４年度芦屋市民スポーツ意識調査報告書<調査結果の要約>・・・・・・・17

第１章　第３期推進計画の概要

１．第３期推進計画の策定の背景

国は、平成 23 年（2011）８月にスポーツ立国の実現を目指し、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、『スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号)』を施行し、平成 24 年（2012）３月に同法に基づく『スポーツ基本計画』を策定しました。その後、平成 27 年（2015）10 月にスポーツ庁が設置され、平成 29 年（2017）３月に『第２期スポーツ基本計画（平成 29 年度～令和３年度)』、令和４年（2022）３月に新たに『第３期スポーツ基本計画（令和４年～令和８年度)』を策定しました。『第３期スポーツ基本計画』では、国民が「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、①社会の変化や状況に応じて、柔軟に対応するというスポーツを「つくる／はぐくむ」という視点、②様々な立場・背景・特性を有した人・組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点、③性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域事情等に関わらず、「誰もが」スポーツに「アクセスできる」ような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点、の３つの「新たな視点」を基軸として、スポーツそのものが有する価値やスポーツが社会活性化等に寄与する価値をさらに高め、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツレガシーを継承・発展させるとしています。

２．第３期推進計画の趣旨

平成 30 年 (2018)に策定された第２期芦屋市スポーツ推進計画及び芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）に基づき、スポーツ行政の推進に取り組んできました。「第３期芦屋市スポーツ推進計画」では「“するスポーツ”“みるスポーツ”“ささえるスポーツ”を推進し、すべての市民がスポーツを楽しむことができる環境を創る。」ことを目指しています。

３．第３期推進計画の目標

（１）“するスポーツ”の推進
（２）“みるスポーツ”の推進
（３）“ささえるスポーツ”の推進

４．スポーツの定義

スポーツ基本法においてスポーツは、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持・増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定義されています。

本計画における「スポーツ」は、競技スポーツに加え、ウォーキングやダンス、健康増進や介護予防などにつながる体操・運動、野外活動やレクリエーション活動なども含む、自発的に楽しむすべての身体活動と定義します。

５．計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第 10 条第１項に規定する「地方スポーツ推進計画」として、国の「第３期スポーツ基本計画」および兵庫県の「兵庫県スポーツ推進計画」の趣旨・内容

を踏まえつつ、本市がスポーツを推進する上で目指すべき方向や取り組みを体系的に示したものです。

６．第３期推進計画の期間

令和６年度(2024)から令和 15 年度（2033)の 10 年間

７．第３期推進計画の構成

（１）第１章「第３期推進計画の概要」
（２）第２章「スポーツを取り巻く現状と課題」
（３）第３章「第３期推進計画の目標と基本的考え方」
（４）第４章「“するスポーツ”の推進」
（５）第５章「“みるスポーツ”の推進」
（６）第６章「“ささえるスポーツ”の推進」

第２章　スポーツを取り巻く現状と課題

１．社会情勢の変化

人生１００年時代の基盤は一人ひとりの心身の健康であり、スポーツは市民の健康づくりや仲間づくりに寄与する活動として期待されています。しかし、令和２年（2020）は、新型コロナウイルスの感染拡大により、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の延期など、大規模スポーツイベントの中止や、各種プロスポーツの開催時期・方法の変更など、スポーツ推進に大きな衝撃、影響を与え、国が示した「新しい生活様式」に留意しながら、スポーツ・レクリエーション活動等を行うことが求められてきました。また、ＩＣＴ（情報通信技術）、ＡＩ（人工知能）、ＶＲ（仮想現実）などのデジタル技術開発が急速に進展し、各種データを活用することによって、「みる」分野におけるエンターテイメント性の向上、「する」分野における新たなスポーツの創造を後押ししています。もう一方で、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、「多様性と調和」を基本的なコンセプトの一つとして、あらゆる面での違いを受け入れて、互いに認め合う共生社会を育むことの重要性が改めて認識されました。

２．芦屋市の現状

本市では、これまで、第２期芦屋市スポーツ推進計画及び芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）に基づき、生涯スポーツの実現に向けた環境づくりに取り組み、地域や団体、学校と連携しながら“するスポーツ”“みるスポーツ”“ささえるスポーツ”に取り組み、すべての市民がスポーツに参加できる環境づくりを推進してきました。施設等のハード面、指導者・ボランティア等のヒューマン面で現状を整理すると以下の通りです。

（１）ハードウエア面（施設等）

①公共スポーツ施設の稼働率が高く、多くの市民や団体に利用されています。
②近代登山発祥の地と言われている芦屋ロックガーデンがあります。
③高座の滝から芦屋ロックガーデン、六甲山へと続く登山道があり、市内・市外からの登山客で賑わっています。
④海辺に兵庫県立海洋体育館があり、マリンスポーツが盛んに行われています。
⑤市内には多くのテニスコートがあり、平日・休日関係なく市民がテニスを楽しんでいます。
⑥公共のスポーツ施設は、ＪＲよりも南側に多く設置されています。
⑦安心してウォーキングや散歩に取り組める道路環境が必要とされています。
⑧市内に健康遊具が設置された公園があります。公園の広場でラジオ体操やペタンクやグランドゴルフなどのレクリエーションスポーツが行われています。
⑨子育て世代が安心してスポーツに参加できるように体育施設にキッズスペースを設置する必要があります。
⑩市内の小学校は、スポーツクラブ 21 やコミュニティスクールに学校体育施設を積極的に開放しているため、市内の中学校においても学校体育施設の地域への積極的に解放が必要とされています。

（２）ソフトウエア面（プログラム・イベント等）

①毎年４月中旬に昭和 59 年(1984)に始まった芦屋さくらファンランが開催されています。

②スポーツ団体間における連携・協働を進めるために、スポーツ協会、レクリエーションスポーツ協会、スポーツ推進委員会、スポーツクラブ 21 ひょうご連絡協議会の４団体であしやスポーツフォーラムを設立しています。

③社会福祉協議会、障がい者スポーツ指導者協議会とスポーツ推進課が協力して、偶数月の第３火曜日・偶数月の第３土曜日にしょうがい者とのスポーツ交流広場が開催されています。

④芦屋市スポーツ協会の主催であしやユナイテッドリレーマラソンや子ども居場所づくりなどの事業が実施されています。

⑤様々なスポーツ教室が開催されていますが、単発で個人でも参加しやすいスポーツ教室の開催が求められます。

⑥運動・スポーツ実施のきっかけづくりのために、市民を対象に新体力テスト測定会が開催しています。

⑦秋は親と子で一緒に楽しむ運動を、春は芦屋大学と連携してかけっことサッカーの教室をファミリースポーツのつどいとして開催しています。

⑧小学校高学年を対象にした国体選手による少年少女カヌー教室を毎年初夏に開催しています。

⑨全国大会、国際大会に出場した市内在住のプロではない者に対してスポーツ活動助成金を給付しています。

⑩県大会、近畿大会、全国大会、国際大会で活躍した市内在住・在勤・在学の者及び市内に住所を有する団体に対してスポーツ賞・スポーツ特別賞を授与しています。

（３）ヒューマン面（指導者・ボランティア等）

①公募及び地域スポーツ団体からの推薦で選出されたスポーツ推進委員が２年間の任期で市内のスポーツ推進のために活動しています。

②スポーツリーダー認定講習会を実施し、新たな人材の発掘に取り組んでいます。

③スポーツリーダーバンクが設置されていますが、活用されていない状況となっています。

④中学校部活動の地域移行へ向け、地域の指導者の確保、育成が急務となっています。

⑤中学校部活動の地域移行へ向け、地域の受け皿となるスポーツ団体の確保、育成が急務となっています。

⑥地域におけるスポーツ指導者に対する体罰やハラスメント防止のための研修が必要となっています。

⑦スポーツ活動に携わるボランティアの発掘、育成が課題となっています。

⑧障がい者スポーツに携わるボランティアの発掘、育成が課題となっています。

⑨市民がスポーツを気軽に行うための受け皿となる地域のスポーツ団体が必要となっています。

⑩市民の受け皿として長く活動していけるように地域のスポーツ団体の透明性とガバナンスを強化する必要があります。

３．芦屋市の特徴

令和４年（2022）10 月に実施した「芦屋市民スポーツ意識調査」からみられる市民のスポーツに対する意識や実践状況、ニーズ等は以下のとおりです。

（１）週１回以上の「定期実施者」は、全体で 55.6%であり、前回調査（H29 年度）(64.3%)、前々回調査（H24 年度）(62.0%）より減少していますが、国（56.4%）と比較すると同程度の値です。また、週３回以上の「定期実施者」は全体で 23.2%であり、前回調査（H29 年度）(31.7%)、前々回調査（H24 年度）(29.0%）より減少しています。

（２）実施種目は、１位「散歩・ウォーキング」(70.6%)、２位「ラジオ体操」(19.6%)、３位「ストレッチング」(16.0%）の順であり、基礎的なトレーニングが大半を占めています。

（３）運動・スポーツの実施理由は、「健康増進・維持」が 58.6%、「運動不足解消」が 53.8%、「楽しみ・気晴らし」が 53.6%となっており、男性では「楽しみ・気晴らし」が最も多く、女性では「健康増進・維持」が最も多いのが特徴です。

（４）市民が望んでいる種目は、１位「散歩・ウォーキング」(24.2%)、２位「ヨガ」(21.8%)、３位「水泳」(15.0%）の順であり、個人で行える種目が大半を占めています。

（５）自身の健康状態の自己評価は、「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせると 90.5%でした。また、体力の自己評価は、最も多い回答は「どちらかといえば体力に自信がある」(51.0%）でした。「体力に自信がある」は全体で 9.1%となっており、男性で 13.0%、女性で 6.9%となっています。

（６）１年間におけるスポーツ行事への参加状況は、「参加した」が全体で 12.4%となっています。参加したスポーツ行事、参加したいスポーツ行事ともに、「参加型イベント」が最も高くなっています。

（７）スポーツクラブや同好会に、「加入している」は全体で 21.3%であり、前回調査（H29年度）の 28.3%より減少しています。また、その内訳は、「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど）」(59.2%)、「地域のスポーツクラブ・サークル・同好会」(31.3%）に加入している人が多くみられます。

（８）運動・スポーツ情報のニーズは、「イベント情報」が 49.7%と最も高くなっています。なお、その情報源について、「広報あしや」が 62.5%と最も高く、前回調査（H29 年度）と比較すると、「広報あしや」、「テレビ・ラジオ」が増加する一方、「新聞・雑誌」が減少しています。

（９）スポーツに関わるボランティア活動に、「おこなった」と回答した人は全体で 4.1%でした。その内容として最も多かった項目が「運動・スポーツの指導」(39.0%）で、そのきっかけは、「好きなスポーツの普及・支援」が 39.1%、次いで「地域での居場所、役割、生きがい」が 34.0%、「出会い・交流の場」が 33.7%となっています。

（10）障がい者スポーツへの関与について、「テレビやラジオ、新聞などで見たり、聞いたりしたことがある」が 93.1%と最も多くなっています。また、今後障がい者スポーツを支援するボランティア活動をおこないたいかについて、「おこないたい」は 20.9%となっており、前回調査（H29 年度）の「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」の合算値 11.2%からは増加しています。

４．芦屋市の課題

現状からみた課題及び方向性は以下のとおりです。

（１）公共スポーツ施設の稼働率が高く、多くの市民に利用されているものの、施設数が不足しています。身近で手軽に利用できる機会と場所のニーズへの対応が必要です。

（２）市民需要の高いウォーキングや体操、ストレッチングを行える機会を増やすことで、スポーツや運動の実施率を高められる可能性があります。

（３）好きなスポーツの普及・支援や、生きがい、地域での交流などを通じたスポーツの一層の振興に向け、スポーツ環境を支えるボランティアの発掘・育成に取り組むとともに、スポーツ教室やイベントの開催などを通じて、スポーツ関係団体、民間企業等と連携・協働する必要があります。

（４）スポーツや運動の取り組み促進にあたっては、目的（運動不足解消・体力づくり）や種目を考慮することが重要です。また、スポーツや運動の種目は、年代などでニーズが異なる点にも配慮が必要です。

（５）市民がスポーツや運動に親しんだり、参加したりするきっかけづくりの観点からもスポーツイベントを通じて、スポーツの魅力を広く周知していくことが必要です。スポーツを支える活動に関わっている人の割合はごくわずかとなっていますが、スポーツをすることができる環境づくりを整備するためには、活動を支えるボランティア等の協力が必要です。そのため、スポーツを支える活動の普及推進と人材の発掘、育成が必要です。

（６）民間のスポーツクラブの加入が高くなっています。一方で、地域のスポーツクラブ・サークル・同好会は、市民のスポーツ参加機会の増加や地域交流の活性化等、地域スポーツの担い手として、また地域コミュニティの核としての役割が期待されています。

（７）スポーツに関する施設やイベントなどの情報について、求めている情報をそれぞれが求める形で受信できるよう、「広報あしや」等の既存の媒体を活用しつつ、ICT（情報通信技術）なども最大限に活用し、効果的に情報を発信していくことが必要です。

（８）障がい者スポーツの認知度は高くなっています。今後も、障がい者スポーツに関する情報発信を行い、普及啓発を通じて、障がいのある人への理解や交流を促進していくことや、障がいの有無や年齢・性別等に関わらず参加できるインクルーシブスポーツの推進に取り組み、多くの人がスポーツに親しむことができる環境を整えることが必要です。

（９）少子化や教員の働き方改革の一環などで、国は中学校運動部活動を地域のスポーツクラブなどに段階的に移行していく方針を示されていることから、運動部活動の活性化と継続に対して、地域における受け皿のシステムづくりが必要です。

（10）子どもの体力が全国平均より低いことから、すべての子どもが、楽しく親しみながら運動・スポーツの習慣を身に付け、生涯にわたり健康に生活するための土台を形成するとともに、体力向上につながるスポーツ環境の充実が必要です。

第３章　第３期推進計画の目標

１．基本理念（ヴィジョン）

“するスポーツ”“みるスポーツ”“ささえるスポーツ”を推進し、すべての市民がスポーツを楽しむことができる環境を創る。

２．使命（ミッション）

スポーツ団体、教育機関、民間事業者、行政が補い合いながら連携・協働することによって、すべての市民が楽しむことができるスポーツ環境を創る。

３．政策目標

（１）“するスポーツ”の推進
（２）“みるスポーツ”の推進
（３）“ささえるスポーツ”の推進

４．数値目標（本計画終了年度まで）

（１）成人の週１回以上のスポーツ実施率が、前々回調査（H24 年度）では 62.0%、前回調査（H29 年度）では 64.3%となっていたが、今回調査（Ｒ４年度）では 55.6%となっている。今回の計画では成人の週１回以上のスポーツ実施率 58.0%を目指します。
（２）成人の週３回以上のスポーツ実施率が、前々回調査（H24 年度）では 29.0%、前回調査（H29 年度）では 31.7%となっていたが、今回調査（Ｒ４年度）では 23.2%となっている。今回の計画では成人の週３回以上のスポーツ実施率 26.0%を目指します。
（３）今回の計画では成人の年１回以上のスポーツ実施率 100%を目指します。

第３期芦屋市スポーツ推進計画（概要）

<table>
<tr><th colspan="3">＜基本理念（ヴィジョン）＞</th></tr>
<tr><td colspan="3">“するスポーツ”“みるスポーツ”“ささえるスポーツ”を推進し、すべての市民がスポーツを楽しむことができる環境を創る。</td></tr>
<tr><th colspan="3">＜使命（ミッション）＞</th></tr>
<tr><td colspan="3">スポーツ団体、教育機関、民間事業者、行政が補い合いながら連携・協働することによって、すべての市民が楽しむことができるスポーツ環境を創り出す。</td></tr>
<tr><th colspan="3">＜政策目標＞</th></tr>
<tr><td>“するスポーツ”の推進</td><td>“みるスポーツ”の推進</td><td>“ささえるスポーツ”の推進</td></tr>
<tr><th colspan="3">＜重点分野＞</th></tr>
<tr><td>（１）子どもが楽しめるスポーツの推進
（２）成人が楽しめるスポーツの推進
（３）高齢者が楽しめるスポーツの推進
（４）障がい者が楽しめるスポーツの推進</td><td>（１）みるスポーツの環境整備
（２）みるスポーツ文化の充実
（３）みるスポーツ施設の充実
（４）トップアスリートやスポーツチームとの連携強化</td><td>（１）スポーツリーダーの発掘と育成
（２）スポーツボランティアの発掘と育成
（３）学校・地域との連携・協働の推進
（４）スポーツ団体のガバナンス強化</td></tr>
</table>

第４章　“するスポーツ”の推進

１．重点分野

（１）子どもが楽しめるスポーツの推進

（２）成人が楽しめるスポーツの推進

（３）高齢者が楽しめるスポーツの推進

（４）障がい者が楽しめるスポーツの推進

２．分野ごとのテーマ

（１）子どもが楽しめるスポーツの推進

①子どもが気軽にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

②親と子が一緒にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

③子どもがスポーツを嫌いにならない仕組みを創出する。

（２）成人が楽しめるスポーツの推進

①働き盛り世代が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

②子育て世代が気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整える。

③性別に関係なく誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

（３）高齢者が楽しめるスポーツの推進

①高齢者が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

②高齢者が世代を超えて一緒にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

（４）障がい者が楽しめるスポーツの推進

①障がい者が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を整える。

②障がい者にとって利便性が良く、安心して使うことができる環境を整える。

③インクルーシブスポーツの推進に取り組み、誰もが等しくスポーツを楽しむことができる機会を整える。

第５章　“みるスポーツ”の推進

１．重点分野

（１）みるスポーツの環境整備

（２）みるスポーツ文化の充実

（３）みるスポーツ施設の充実

（４）トップアスリートやプロスポーツチームとの連携強化

２．分野ごとのテーマ

（１）みるスポーツの環境整備

①参加者を楽しませるだけでなく見学者に見せることも意識したイベント実施を推進する。

②兵庫県内のスポーツチームと連携し、市民が気軽にスポーツを観ることができる機会を創出する。

（２）みるスポーツ文化の充実の課題

①市内小学生によるスポーツに関するポスター展の更なる充実を図る。

②芦屋ゆかりのスポーツ人物像の更なる充実を図る。

（３）みるスポーツ施設の充実

①既存のスポーツ施設のバリアフリー化に取り組む。

②新規のスポーツ施設のユニバーサルデザイン化に取り組む。

（４）トップアスリートや兵庫県内のスポーツチームとの連携強化

①トップアスリートと直接触れ合うことができるイベントの実施に取り組む。

②兵庫県内のスポーツチームと協働し参加型の楽しめるイベントの実施に取り組む。

第６章　“ささえるスポーツ”の推進

１．重点分野

（１）スポーツリーダーの発掘と育成
（２）スポーツボランティアの発掘と育成
（３）学校・地域との連携・協働の推進
（４）スポーツ団体のガバナンス強化

２．分野ごとのテーマ

（１）スポーツリーダーの発掘と育成

①毎年、スポーツリーダー認定講習会を開催し、新たなリーダーの発掘を図る。

②スポーツリーダーや地域のスポーツ指導者にスキルアップ研修を受ける機会を創出する。

③スポーツリーダーや地域のスポーツ指導者に体罰やハラスメントに関する研修を受ける機会を創出し、受講を義務付ける。

④女性をスポーツ指導者やスポーツ団体の役員へ積極的に登用していくように啓発する。

⑤既設のスポーツリーダーバンクを再構築し、発掘・育成したスポーツリーダーや地域のスポーツ指導者の活用を図る。

（２）スポーツボランティアの発掘と育成

①スポーツボランティアの啓発を積極的に行い、新たなボランティアの発掘を行っていく。

②スポーツボランティアのモチベーションが上がる取組を研究していく。

（３）学校・地域との連携・協働の推進

①芦屋大学との官学連携を更に強化し、市民のニーズにマッチしたイベントを開催していく。

②あしやスポーツフォーラムが充実した活動を行えるように運営のノウハウについての支援を行う。

（４）地域スポーツ団体のガバナンス強化

①市民に最も近い受け皿である地域のスポーツ団体が、永続的に活動できるように組織の透明性を高める取り組みを一緒に推進する。

②地域スポーツ団体が充実した活動を行えるように運営についてのノウハウについての支援を行う。

【関係資料】

芦屋市スポーツ推進審議会・同調査専門部会審議日程

日程	会議名	内容
令和4年 8月5日	令和4年度第1回 芦屋市スポーツ推進審議会	・第3期スポーツ推進計画策定の諮問 ・市民スポーツ意識調査実施の承認 ・調査専門部会設置の承認
令和5年 2月10日	令和4年度第1回 調査専門部会	・市民スポーツ意識調査の結果に関する報告
3月10日	令和4年度第2回 芦屋市スポーツ推進審議会	・市民スポーツ意識調査の結果に関する報告
5月12日	令和5年度第1回 調査専門部会	・第3期スポーツ推進計画（答申）（案）の検討
5月26日	令和5年度第1回 芦屋市スポーツ推進審議会	・第3期スポーツ推進計画（答申）（案）の審議
6月9日	令和5年度第2回 調査専門部会	・第3期スポーツ推進計画（答申）（案）の検討（継続）
6月23日	令和5年度第3回 調査専門部会	・第3期芦屋市スポーツ推進計画（答申）の完成
6月29日	令和5年度第2回 芦屋市スポーツ推進審議会	・教育長へ第3期芦屋市スポーツ推進計画（答申）の答申

芦屋市スポーツ推進審議会委員一覧

（令和４年８月１日現在）

氏　名	役職	調査専門 部　　会	所　属
まつお　しんのすけ 松尾　信之介	会長		大阪学院大学 准教授
なかみち　りお 中道　莉央		部会員	びわこ成蹊スポーツ大学 准教授
あおの　ももこ 青野　桃子	副会長	部会長	大阪成蹊大学 講師
せき 関　めぐみ		部会員	甲南大学 講師
わだ　ゆかこ 和田　由佳子			立命館大学 専任講師
きょうだ　ひろゆき 京田　弘幸		部会員	特定非営利活動法人芦屋市体育協会 副会長
いはら　かずひさ 井原　一久			芦屋市レクリエーションスポーツ協会 会長
ねごろ　としひこ 根来　俊彦			芦屋市スポーツ推進委員会 副会長
なかた　いつこ 中田　伊都子		部会員	スポーツクラブ２１ひょうご芦屋市連絡協議会 会長
のむら　だいすけ 野村　大祐			芦屋市教育委員会学校教育部学校教育課長
いわもと　わかこ 岩本　和加子			芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課長
なかむら　まい 中村　麻衣			市民公募

（順不同）

（諮問文）

芦教ス第２８０号
令和４年８月１日

芦屋市スポーツ推進審議会
会長　松尾　信之介　様

芦屋市教育委員会
教育長　福岡　憲助

「第３期芦屋市スポーツ推進計画」の策定について（諮問）

このことについて、芦屋市スポーツ推進審議会条例第２条の規定に基づき、理由を添えて諮問します。

（理由）

国においては、スポーツ基本法に基づき、令和４年３月に「第３期スポーツ基本計画」が策定されました。

兵庫県においては、国が策定した「第３期スポーツ基本計画」を参酌し、令和４年４月に「第２期スポーツ推進計画」が策定されました。

芦屋市においては、平成２６年３月に策定した「芦屋市スポーツ推進実施計画」が令和５年度で最終年を迎えます。

このような諸情勢を踏まえ、「芦屋市スポーツ推進実施計画」の検証及び令和４年１０月に実施する「市民スポーツ意識調査」の結果を基に、今後も市民がそれぞれの状況に応じながら継続してスポーツが実施できるように「第３期芦屋市スポーツ推進計画」を策定したいと思います。

（諮問事項）

芦屋市の実情に即した新たなスポーツ推進の計画について

（答申時期）

令和５年６月末を目途にお願いします。

以　上

令和４年度芦屋市民スポーツ意識調査報告書

＜調査結果の要約＞

住民基本台帳より、18 歳以上 79 歳以下の芦屋市民 3,000 人を標本(系統抽出法)にし、郵送及び電子回答による意識調査を実施した(令和４年 10 月)。有効回収数は 1,054 票、有効回収率は 35.1%であった。

１．週１回以上の「定期実施者」について、全体で 55.6%（男性 53.4%、女性 56.9%）であり、前回調査（H29）の 64.3%、前々回調査（H24）の 62.0%より減少しているが、R3 の全国平均（56.4%）と比較すると同程度の値である。これは、第３期スポーツ基本計画（スポーツ庁、2022）が目指す 70%の数字を 14 ポイントほど下回る値である。週３日以上の「定期実施者」は全体で 23.2%(男性 21.1%、女性 24.7%)であり、前回調査(H29)の 31.7%、前々回（H24）の 29.0%より減少している。「未実施者」(年間ゼロ)は全体で 14.0%（男性 11.2%、女性 15.8%）であり、前回調査（H29）の 8.2%より増加している。年齢層別にみると、「週に１日以上」行っている人の割合は、18～39 歳が 45.2%、40～59 歳が 48.0%、60 歳以上が 63.8%と年齢層があがる程が高くなっている。

２．この１年間に行った運動・スポーツ種目について、1 位「散歩・ウォーキング」(70.6%)、2 位「ラジオ体操」(19.6%)、3 位「ストレッチング」(16.0%) の順であり、基礎的なトレーニングが大半を占めている。性別でみると、男性においては、1 位「散歩・ウォーキング」(65.1%)、2 位「ゴルフ（コース)」(27.8%)、3 位「ゴルフ（練習場)」(24.7%)となっており、女性においては、1 位「散歩・ウォーキング」(73.6%)、2 位「ラジオ体操」(23.0%)、3 位「ヨガ」(19.7%) となっている。

３．スポーツ実施者の活動時間帯について、「平日・午前中」が 39.3%、次いで「平日・昼間」が 31.6%となっている。性別でみると、男性の最も多い項目は「休日・午前中」(38.3%)、次いで「休日・昼間」（38.0%)、「平日・午前中」（32.6%）である。一方、女性の最も多い項目は「平日・午前中」(43.4%)、次いで「平日・昼間」(33.4%)、「平日・夕方」(26.9%)となっている。前回調査(H29)と同様に、男性は休日に運動する傾向があり、女性は平日に運動する傾向がみられる。

４．運動・スポーツの実施理由について、「健康増進・維持」が 58.6%、「運動不足解消」が 53.8%、「楽しみ・気晴らし」が 53.6%である。性別でみると、男性では「楽しみ・気晴らし」が最も多く、女性では「健康増進・維持」が最も多い。

５．この１年間における運動やスポーツを実施した方法について、「個人で自由に」が 71.9%、「家族と」が 28.0%、「民間のスポーツクラブ(会員制フィットネスクラブなど)」が 17.6%である。性別でみると、男女ともに「個人で自由に」「家族と」が上位を占めるが、これに次いで、男性では「地域の友人と自由に」(13.8%)、「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど)」(13.8%) が続き、女性では「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど)」(19.5%)、「地域の友人と自由に」(12.6%) が続いている。

６．運動・スポーツの実施の阻害要因について、「仕事や家事が忙しい」が 35.4%、「面倒くさいから」が 20.1%、「年を取ったから」が 18.1%である。性別にみると、男女ともに「仕事や家事が忙しい」が最も多いが、2 番目に多い項目は男性が「面倒くさいから」、女性が「年を取ったから」となっている（「特に理由はない」は除く)。

７．これから始めてみたい運動・スポーツ種目について、1 位「散歩・ウォーキング」(24.2%)、2 位「ヨガ」(21.8%)、3 位「水泳」(15.0%) の順であり、個人で行える種目が大半を占めている。性別で見ると、男性に多いのは「散歩・ウォーキング」(24.5%)、「登山」(16.6%)、「サイクリング」(14.4%) であり、女性に多いのは「ヨガ」(30.9%)、「散歩・ウォーキング」(24.2%)、「水泳」(15.5%) である。

８．自身の健康状態の自己評価について、「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせると 90.5%であった。年齢層別では「健康である」と答えた人の割合は年齢層があがるにつれて低下し、「健康でない」「どちらかといえば健康でない」と答えた人は、いずれも年齢層があがるにつれて高くなるなど、高齢になるほど健康に不安を抱える傾向にあることが示されている。

９．体力の自己評価について、最も多い回答は「どちらかといえば体力に自信がある」(51.0%) であった。「体力に自信がある」は全体で 9.1%となっており、男性で 13.0%、女性で 6.9%となっている。「どちらかといえば体力に不安がある」と「体力に不安がある」を合わせると、全体で 39.8%、男性で 31.1%、女性で 44.8%となっており、男性よりも女性の方が体力に不安を抱えている傾向がみられる。

10．運動不足の自己評価について、「大いに感じる」は 30.9%、「ある程度感じる」は 48.1%、「あまり感じない」は 14.4%、「ほどんど（全く）感じない」は 6.6%となっている。年齢層別でみると、「大いに感じる」では 40～59 歳が 40.1%と最も高く、「ほとんどである（全く）感じない」では 60 歳以上が 7.8%と最も高い割合となっている。

11. 子どもの運動不足とその理由について、「ゲームをしたり、スマホをさわる時間が長くなり外に出なくなった」が 70.2%、「塾や習い事が忙しいため時間がない」が 52.0%、「新型コロナウイルス感染症対策による影響」が 41.6%と続く。性別でみると、「塾や習い事が忙しいため時間がない」（男性 45.3%、女性 55.8%）のほか、「社会環境の変化に伴い、外が危険である」（男性 28.5%、女性 41.7%）「新型コロナウイルス感染症対策による影響」（男性 35.2%、女性 45.4%）においては、女性が男性に比べて高い割合となっており、女性の方が外出の危険性に対してより強く警戒していることが示されている。

12. 1年間におけるスポーツ行事への参加について、「参加した」が全体で 12.4%（男性 13.2%、女性 12.0%）となっている。参加したスポーツ行事については、「参加型イベント」が 67.2%と最も高く、次いで「スポーツ教室」28.4%、「体力測定会」13.8%となっている。

13. 今後参加したい地域スポーツ行事について、「参加型イベント」が 55.0%と最も多く、「スポーツ教室」36.5%、「体力測定会」31.5%と続く。

14. スポーツクラブや同好会の加入状況について、「加入している」は全体で 21.3%（男性 22.3%、女性 20.5%）であり、前回調査(H29)の 28.3%より減少している。年齢層別でみると、「加入している」と答えた 60 歳以上が 25.3%、18～39 歳が 23.6％、40～59 歳が 15.7％と中年層の参加率がやや低くなっている。

15. スポーツクラブや同好会に加入している人の内訳について、「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど）」(59.2%)、「地域のスポーツクラブ・サークル・同好会」（31.3%）に加入している人が多くみられる。一方、学校（9.5%）や職場（5.0%）のスポーツクラブ・サークル・同好会への参加率は男女ともに低くなっている。

16. 今後加入してみたいと思うスポーツクラブ・同好会について、「地域のスポーツクラブ・サークル・同好会」が 53.3%と最も多く、次いで「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど）」が 50.7%である。一方、学校（3.2%）や職場（3.2%）のスポーツクラブ・サークル・同好会へ加入したいという回答は男女ともに低くなっている。

17. 「スポーツクラブ２１」への加入状況について、「加入している」は全体で 3.3%（男性 2.1%、女性 3.7%）となっており、前回調査(H29)の全体 1.3%と比べると微増している。「知らない」は全体で 74.0%（男性 79.9%、女性 70.7%）である。

18. この１年間に運動・スポーツを行った施設の利用状況について、「道路」(36.2%)、「自宅または自宅敷地内」(31.4%)、「山岳・森林・海・湖・川等の自然環境」(29.8%) の順となっている。性別でみると、男性は「公園」、「山岳・森林・海・湖・川等の自然環境」、「民間商業アウトドア施設（レジャープール、スキー場、ゴルフ場など)」と屋外施設の割合が他に比べて高く、女性は「自宅または自宅敷地内」、「民間商業インドア施設（会員制フィットネスクラブなど)」と屋内施設の割合が他に比べて高い。

19. スポーツ施設整備に関する要望について、「公共スポーツ施設の充実」が 58.6%、次いで「自然を利用した施設の整備」が 53.1%、「公園施設の充実」が 41.0%である。

20. 運動・スポーツ情報のニーズについて、「イベント情報」が 49.7%、「施設情報」が 47.3%、「新しいスポーツや気軽にできるスポーツなどの情報」が 40.7%、「教室情報」が 40.2%である。性別でみると、女性は「教室情報」「新しいスポーツや気軽にできるスポーツなどの情報」「体力づくり情報」の割合が他に比べて高くなっており、男性は「競技会情報」の割合が他に比べて高くなっている。

21. 運動・スポーツの情報源について、「広報あしや」が 62.5%、「友人・知人」が 35.1%、「施設のポスター・チラシ」が 30.1%である。前回調査(H29)と比較すると、「広報あしや」、「テレビ・ラジオ」が増加する一方、「新聞・雑誌」が減少している。

22. 過去１年間に現地やメディアで観戦したことのあるスポーツの割合について、１位「プロ野球」(60.9%)、２位「プロサッカー」(34.3%)、３位「大相撲」(31.0%)、４位「ゴルフ」(27.2%)、５位に「テニス」(22.4%) の順となっている。観戦した理由については、「そのスポーツが好きだから」が 67.9%と最も高く、「応援している選手がいるから」が 28.0%、「なんとなく・たまたま」が 21.5%となっている。

23. 過去１年間に何らかのスポーツに関わるボランティア活動について、「おこなった」と回答した人は全体で 4.1%、「おこなっていない」と回答した人は全体で 95.9%である。前回調査(H29)の「ある」は全体で 6.2%であり、2.1 ポイント減少している。具体的なスポーツ・ボランティア活動の内容として最も多かった項目が「運動・スポーツの指導」(39.0%) である。これに「大会・イベントの運営や世話」(34.1%)、「スポーツクラブ・サークル・同好会の運営や世話」(26.8)、「スポーツクラブ・サークル・同好会での補助的な活動」(26.8%) が続く。

24. スポーツに関するボランティア活動のきっかけについて、「好きなスポーツの普及・支援」が 39.1%、次いで「地域での居場所、役割、生きがい」が 34.0%、「出会い・交流の場」が 33.7%となっている。

25. 障がい者スポーツへの関与について、「テレビやラジオ、新聞などで見たり、聞いたりしたことがある」が 93.1%と最も多い。一方、「観戦したり、または参加したことがある」は 8.8%、「指導や介助、スポーツ大会スタッフなどに関わっている、または関わったことがある」は 2.1%となっており、障がい者スポーツへの関与の大部分は間接的なものとなっていることがわかる。

26. 今後障がい者スポーツを支援するボランティア活動をおこないたいかについて、「おこないたい」は 20.9%となっており、前回調査(H29)の「ぜひおこないたい」「できればおこないたい」の合算値 11.2%からは増加している。「おこないたい」と回答した人のおこないたいボランティア活動の内容では、「スポーツ大会・イベントの運営や世話」（75.5%）、「スポーツ団体・クラブの運営や世話」（31.8%）、「運動・スポーツの指導」（10.9%）と続いており、前回調査と同様の傾向がみられる。

27. 今後の障がい者スポーツの普及・推進のために必要だと思う項目について、「施設及び用具の整備」が 62.6%であり、「情報提供の充実」47.1%、「指導者を増やす」43.9%、「必要経費の補助」41.8%が続く。